

ハイアド、ハイキャストA液使用上の注意点

1. 季節に応じた注意点P-2
2. 吸湿・発泡についてP-2
3. 加温溶融についてP-3
4. 保管条件P-3
5. 高温時の安定性・取扱いについてP-3
6. 吐出機(注入機)での取扱い注意点P-4

ハイアド、ハイキャストのA液(ポリオール成分)は吸湿しやすい素材です。弊社では十分に検査し、品質上問題ない製品を出荷していますが、お客様での保管・使用中に変質したものについての責任は負いかねます。本書に記載された性状および注意点を充分ご理解の上、ご使用くださるようお願い申し上げます。

1. 季節に応じた注意点

● 冬場

一部の原料(ハイキャスト 3400 系)は 15℃以下になる季節では氷結します。入荷した原料が氷結していた場合は完全に加温溶解し、よく振混ぜてからご使用ください。(加温溶解方法は 3 項を参照)

また氷結しない原料でも、品種によってはかなり増粘し、流動性がなくなる場合があります。使用する前に室温まで戻すようご配慮願います。

冷えた原料缶を暖かい室内で直ちに開封すると、結露した水滴が入り込む場合があります。

● 梅雨から夏にかけて

湿度が高くなり、原料が吸湿しやすくなる季節です。

湿気に充分注意してください。

開封した缶に湿気が入ると硬化物が**発泡**することがあります。

開封した原料を保管する場合は、容器の空間に**窒素ガス**を封入してください。

また直射日光を避けて保管してください。

熱のこもりやすい倉庫で長時間保管した場合、外観変化(黄ばみ・着色剤等の沈降分離)や可使時間変化(短縮または遅延)を起こします。

● 秋から初冬にかけて

通常の原料は特に問題なくお使いいただけます。氷結しやすいタイプの原料は室温で保管中に結晶化する場合があります。特に黒色に着色してある場合は、その変化に気づきにくいいため、注意が必要です。液温が低下しすぎないように適宜保温してください。

2. 吸湿・発泡について

● A液は吸湿しやすい原料です。

したがって、開封したまま放置することは絶対に避けてください。原料容器や小分けした容器はご使用后必ず密封してください。

● 必要に応じて窒素または乾燥空気によるシールをお願いします。

● 特に高圧・低圧吐出機を使用する場合は、窒素ガスによるタンクシールおよび加圧をお薦めします。

● A液に湿気が入り込むとB液と反応させた場合に**発泡**します。

成形物の表面だけでなく内部にも細かい気泡が多く発生し、外観不良や強度不足を招きますので注意してください。

● 発泡現象が起きた場合はDHペースト(脱水剤)をご使用ください。吸湿量にもよりますが、1%程度の添加で発泡現象を抑えることができます。

3. 加温溶融について(氷結する原料についてのみ適用)

- 40～50℃で加温溶解後均一に混ぜ、氷結部分がなくなり透明になったことを確認してからご使用ください。
 - 1 kg 缶の場合 40～50℃で 1～2 時間加温溶解後均一に混ぜる。
 - 5kg 缶の場合 40～50℃で 3～4 時間加温溶解後均一に混ぜる。
 - 石油缶の場合 40～50℃で 5～6 時間加温溶解後均一に混ぜる。

氷結しないタイプの原料は特に加温する必要はありません。室温が低すぎて硬化に時間がかかる場合や、品種棟により液温が指定されている場合は逸れに従ってください。

- 原料によっては加温して真空脱泡すると成分の揮発を招くものがあります。個々の技術資料をご確認ください。

4. 保管条件

- 湿度が低く直射日光の当たらない場所に保管してください。A液だけであれば氷点下になったとしてもほとんど変質することはありません。5～35℃の範囲で保管していただければ問題ありませんが、出来るだけ室温に近い状態での保管をお勧めします。
なお、B液と一緒に保管している場合は、B液の保管方法に準じてください。

5. 高温時の安定性・取扱いについて

- A液を 50℃以上で長期間加熱し続けると分離したり変質したりすることがあります。必要以上の加熱は避け、できるだけ**室温で保管**してください。
- 長時間高温で保管した場合、外観変化(黄ばみ・着色剤等の沈降分離)や可使時間変化(短縮または遅延)を起こします。
- 溶融したかどうかの確認のため開封する場合は、**液の飛散に注意**してください。
- 内圧のかかった容器の蓋を取る場合は、缶の蓋をウエスで押さえ、ドライバー等を利用して蓋の端を少し持ち上げ、内圧を逃がしてください。
いきなり蓋を取り去ると蓋が飛び上がるとともに、缶がへこむ勢いで液が噴出し大変危険です。

6. 吐出機（注入機）での取扱注意

- 吐出機にA液を投入し長期間放置した場合、吸湿したり着色剤や添加してあるフィルターが沈降しフィルターに詰まることがあります。定期的な循環やストレーナーの確認をお願いします。
また、配管の材質によっては可使時間の短縮を招くことがあります。
- 吐出機の原料タンクを加圧する際は**窒素ガス**を使用してください。
コンプレッサーの圧縮空気を直接使用した場合は吸湿により発泡現象を引き起こします。
- 原料は長期間タンクに入れたままにしないでください。長期間放置後、使用を再開する際はまず成形状態を確認し、少しでも異常があれば**原料を新しいものに入れ替え**てください。
- 結晶化するタイプの原料を吐出機内で氷結させることは避けてください。氷結させた場合、すべてを溶融することはかなり困難になります。
吐出機のタンクや配管は温調をかけ、休業中でも温度が低下しないように配慮してください。
- 長時間加圧を続けた場合、エアーが原料に溶解し、反応時にガス化して成形品の発泡現象を起こすことがあります。
このような場合、原料を入れ替えるか真空脱泡することをお薦めします。
- 吐出機の配管はステンレスにすることをお薦めします。

この技術資料を基に弊社の製品をお使い頂く場合には、この製品が貴社の用途に適しているかどうかを充分ご検討の上、貴社の責任でお決め頂くようお願いします。弊社製品の用途やその使用条件などは弊社が管理できる範囲外のため、この技術資料の正確さや使用結果あるいは第三者の特許抵触などについての責任は負いかねます。